

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年5月25日(土)

活動隊員:福島 芳子

1. 活動期間

2024年5月21日(火)8時 ~ 2024年5月23日(木)17時

2. 活動場所

避難所:正院公民館(石川県珠洲市正院町正院22部2番地1)

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

珠洲市立宝立小中学校(石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83番地)

仮設住宅:正院町第1団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

正院町第2団地(正院ゲートボール場・石川県珠洲市正院町正院2部1番地)

宝立町第1団地(珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83)

3. 石川県珠洲市の被害状況(5月21日14:00時点 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:7,085棟 非住家被害:5,160棟

通水率 73.1%

4. 避難所の状況

【避難者数】

正院公民館 5月21日:4人

大谷小中学校 5月22日:28人

宝立小中学校 5月23日:63人

【避難所運営及び生活状況】

1) 正院公民館 訪問日時:5月21日(火)13:30頃

日中は避難所内に避難者はおらず、仕事に出ている方3名、自宅の片付けに行かれています。避難所は上下水道の利用ができ、水洗トイレも使用できている。避難所から仮設住宅に入られた方も時々、避難所を訪問し、本部長とお話したり、簡易テントシャワーを利用している。

2) 大谷小中学校 訪問日時:5月22日(水)8:00頃

運営体制の変更はなかった。物資支援は毎週定期的に届くよう継続支援がされている。体育館内の暑さ対策として冷房設置予定ではあるが、冷房が苦手という方もいるため、換気対策も兼ねて網戸の取り付け準備が進められている。長期ボランティアが体育館内2階で滞在し、網戸取り付け支援等を実施していた。仮設住宅予定地である大谷小中学校グラウンドの測量が開始され、建設準備が開始された。週末にはイベント開催も予定されている。

3) 宝立小中学校 訪問日時:5月23日(木)8:30頃

自衛隊による入浴支援は毎日15時~21時で継続されており、仮設住宅入居者も利用している。仮設

住宅入居者が、避難所を訪問し、本部の方とお茶を飲みながらお話ししたり、避難生活の相談をしている。週末には、宝立町民が参加できるグランドゴルフ大会が予定されており、避難所が受付窓口になっていた。

5. 仮設住宅の状況

【正院町第1団地：正院小中学校グラウンド 76戸】訪問日：5月21日（火）、22日（水）、23日（木）

天気の良い日は、洗濯物を外に干してあるお宅が多くあった。同じような家が並ぶため、高齢者の中には、自宅がわかるようにと、帽子や椅子等を目印に外に出しているお宅があった。集会所でのお茶会は、火・水・木で継続開催されている。外部支援団体が集会所のお茶会開催時に訪れたり、テレビ局の取材があった。今後も炊き出しやイベントが多く計画されている。

【正院町第2団地：正院ゲートボール場 28戸】訪問日：5月21日（火）、5月23日（木）

日中は、駐車場に車もほとんどない。集会所の設置はなく、正院町第1団地の集会所を利用することになるが、1km以上の距離がある。掲示板が設置されているが、入居者の名前の表示はない。

【宝立町第1団地：宝立小中学校グラウンド 153戸】訪問日：5月21日（火）、22日（水）、23日（木）

天気の良い日は、洗濯物を外に干してあるお宅が多くあった。高齢者が誘いあって外出している姿や仮設住宅内の知人宅を訪問され、玄関先で住民同士が立ち話をされている姿が見受けられ、住民同士の交流が行われていた。集会所の利用は開始されていなかったが、掲示板には宝立町民イベントについての情報が掲示されていた。各棟に日常管理員が配置され、入居者への情報伝達は日常管理員からも周知されるよう、システムが構築されていた。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援：正院公民館】

本部長のお話では、仮設住宅に入り、家の畑で野菜作りを再開され、日々表情が明るくなっている方や復興に向けての前向きなお話をされている方もいらっしゃる一方で、震災時の体験がトラウマとなっている住民もいるとのことであった。若い世代の中には、市民が気軽に立ち寄れるカフェの開催や外部支援者とのニーズマッチング等の支援を住民自ら実施していきたいという声がでていた。

【避難所巡回支援：大谷小中学校】

体調不良者はいませんでした。トイレ内や排水溝付近等に蚊・虫・ハエの発生がみられ、虫刺され薬を支援物資として要望されていた。新聞を読みながら、ゆっくりと朝を過ごされている方もおり、避難所内は落ち着いた状況でした。保健師の巡回があり、避難所環境の確認や必要な対策が適宜、指導・実施されている。

【避難所巡回支援：宝立小中学校】

仮設住宅入居者が散歩していたり、外出している等の生活状況を避難所運営本部の方々が把握されており、入居者訪問でご不在の方の状況を教えていただいた。避難所運営本部は仮設住宅の方からの相談も受けるなど、継続した支援活動が行われている。

【仮設住宅支援：正院町第1団地、第2団地】

n 入居者訪問

以前から継続して訪問している要フォロー3世帯の訪問を行った。体調変化や生活状況、新たな介護

サービスの導入結果の確認等をしました。健康増進センター、福祉課、ささえ愛センター、民生委員と状況について情報共有し、継続フォローが必要な方については、集会所でのお茶会のお誘いも含めたフォローをしていくこととした。

n お茶会開催

開催場所：正院町第1団地集会場

開催日時：5月21日（火）～23日（木）10:00～12:00

参加者数：5月21日（火）15人、5月22日（水）20人、5月23日（木）16人

正院第1団地、正院第2団地、蛸島団地、在宅の方が参加された。

5月21日（火）: 各自で名札を作り、参加者の名前を知ることができるようにした。暑くなり、蚊や虫が多くなる季節となるため、参加者が以前に作成し保存してあった虫よけアロマ水をスプレーボトルに分け配布した。参加者は、効能等の説明を聞き、柑橘系の香りに癒され、喜ばれていた。また、参加者の方が以前に作られたプレスレットも配布された。各自が好きな色を選ばれて身につけ、笑顔あふれる交流となった。外部支援者の来訪があり、参加者の方の希望を伺いながら、民生委員とイベント開催内容とスケジュール調整をされていた。希望者に血圧測定を実施したが、避難生活後に血圧が高くなっている方が増加していた。男性参加者は2名で、お茶を飲みながら、お二人でお話していた。

5月22日（水）: 事前に料理提供があることが伝えられており、若い方も参加され、多くの方が参加していた。参加者のお一人が講師となり、野菜ジュースを使用し仮設住宅のIH使用でも簡単にできるミネストローネづくりを実施した。家庭で簡単にでき、被災後の野菜不足や塩分過多になりがちな食生活の改善を目的とした料理に、参加者は調理方法の説明を熱心に聞いていた。また、参加者のご自宅のお供え餅でぜんざいを作っていただき、持参されたきゅうりの漬物と共にふるまわれた。参加者は、久しぶりに食べるお餅を喜ばれていた。

5月23日（木）: ささえ愛センター職員2名も参加し、参加者の状況を把握していただく機会となった。地元テレビ局の取材も入っていた。お茶を飲みながら、今後のお茶会に実施する内容について参加者間で話し合いがされ、毎週火曜日：小物づくり等（脳の活性化）、水曜日：料理作り（食生活改善）、木曜日：シルバーリハビリ体操（高齢者の介護予防）とし、内容の詳細については、参加者の希望を聞いて決めていくことになった。その後、全員でシルバーリハビリ体操を熱心に取り組みれていた。また、男性参加者は2名と少なく、男性に参加していただくにはどうしたら良いかとの意見交換がされ、お茶会ではない別の内容が良いのではないかと、男性が男性を誘うようにしないと参加はしない等の意見が出された。

【仮設住宅支援：宝立町第1団地】

n 入居者訪問

要フォロー世帯等7世帯の訪問をし、2世帯はささえ愛センターと共に訪問した。高齢者の中には、最近、体調を崩され医療機関を受診し、介護保険サービス導入を検討する必要がある方もおり、健康増進センター、福祉課、ささえ愛センターに情報提供をした。以前より、血圧が高くなっている方もおり、仮設住宅内での生活で運動量が低下していること、避難所生活で濃い味付けに慣れて、仮設住宅入居後も塩分が多くなっている生活状況とのことであった。避難所本部長から避難所生活中より気になっている方を教えていただき、健康増進センター、ささえ愛センターに情報提供をした。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所巡回支援】

避難所から仮設住宅に入居して生活が落ち着き、集会所を中心とした場所で新たなコミュニティによる交流が深まってきた地域もあれば、これから仮設住宅の建設着工される地域もある。また、同じ地域の中でも、すでに仮設住宅入居後数ヶ月生活をされている方、仮設住宅入居申込をしているが未だ仮設住宅への入居が決まらず、避難所生活を続けておられる方もおり、今後、このような状況が長期にわたる場合、精神的苦痛によるストレス障害が予想される。また、暑い季節を迎えつつあり、冷房設置や蚊等の虫さされ対策等、新たな環境課題に対する対策が必要な状況である。引き続き心身共に健康状態の観察と対策支援を継続していく必要があると考える。

【仮設住宅支援】

集会所のお茶会開催から、住民自ら主体的に活動する新たな地域コミュニティにおける自治が生まれつつある。日々の避難生活の中で少しでも楽しみを見出し、今後の生活への希望へとつながることを期待し、住民自らの活動を見守り支えていきたい。

入居者への個別訪問や集会所でのお茶会時の健康状態の観察では、高血圧傾向、活動量の低下や外出機会の減少がみられる。過去の災害事例でも、運動習慣の減少、循環代謝系の疾患（脳血管疾患、糖尿病、高血圧、メタボリック症候群等）の増加、社会的孤立等が報告されており、災害関連死の要因でもある。災害サイクルを踏まえた健康課題の把握や住民のセルフケア能力を高めるためにも、個々の住民の定期的な健康観察等の支援活動は有効であると考えられる。

通水率は改善されているが、自宅の中の配管修理工事が数ヶ月先など、実際には上下水道が使用できない家庭も多くあり、手洗い等の感染症対策が不十分な状況にある。今後、梅雨の季節に入り、カビによる肺炎や気温・湿度の高い季節となり、脱水や熱中症の増加等の健康問題が生じることが予想される。災害関連死を防ぐためにも、仮設住宅のみではなく、在宅を含めた地域全体の健康対策支援活動が必要である。集会所がその一つの活動拠点となるよう、引き続き住民と共に検討していきたい。

参考：現地の様子



集会所でのシルバーリハビリ体操



正院町第2団地に設置された掲示板